

学力とは何かを栃木女子刑務所で考える

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

私は、今週の月曜日の6月9日に栃木刑務所に行かせていただきました。ここは、栃木市にある女子刑務所です。そこで、刑務者の皆さんに勉強の仕方といますか、学ぶとはどのようなことかというお話をさせていただきましたので、今日はそれについて少し紹介させていただきます。

2. 受刑者の皆さんは、これから社会に出て人生をやり直そうとされていると思います。そのためにも学力をきちんと身に付けて、社会のお役に立つような人になってもらいたい、そのような思いでお話させていただきました。

受刑者の皆さんと一緒に考えたのは、「学力とは何か」ということです。学力という漢字の学と力の中にひらがなの「ぶ」を入れると、学ぶ力となります。ですから、私は、学力とは学ぶ力であると考えます。テストでよい点数を取ること・学校でよい成績を取ることもちろん学力ですが、社会に出てからの学力は学ぶ力であると思います。また、担任・担当の先生から学ぶことも大事ですが、自分で学ぶことが大事です。この自分で学ぶ力が学力だと思います。漢字というのは素晴らしいもので、じっくりと見ると本当の意味がわかってきます。

3. では、なぜ学力、つまり学ぶ力を身に着けたほうがよいのでしょうか。少し難しい言い方になりますが、学力が身に着けば身に着くほど人生における選択肢が増えるからです。

4. 恥ずかしい話ですが、私は弁護士になりたくて大学のとくに法律を勉強しました。何回か司法試験に落ちてしまったため、今は弁護士という仕事できません。もし私が弁護士の仕事をすると、弁護士法違反で刑罰の対象になってしまいます。ところが、司法試験に受かって司法研修所で無事に研修が修了した方は、各弁護士会に登録すると弁護士としての仕事ができます。このように、きちんと勉強して司法試験に受かり弁護士資格を取ると、弁護士の仕事をするという選択肢が得られます。私のように何回か落ちた方には弁護士になるという選択肢がなく、弁護士の仕事はできないのです。これも学力があるかないかで決まると思います。

5. また、自動車を運転する場合には、運転免許証が必要です。これも一所懸命に勉強して試験に合格すると運転免許証を取ることができ、自動車を運転することができます。一方で、運転免許証のない方が運転すると無免許運転となり、刑罰の対象となります。つまり、学力を身に着けて運転免

許証の試験に合格して交付を受けると自動車を運転するという選択肢が生まれますが、不合格で無免許のまま運転すると逮捕までされてしまうのです。

6. このように、学力が身に着くと弁護士になることもでき、自動車を運転することもできます。人生における選択肢、いろいろなものを選ぶ「あし」というようなものがどんどん増えてきます。もう少し難しい言い方をすると、多様になります。つまり、様々なものの中から自分に最も適したものを選ぶことができます。これが学力を身に着ける意味の1つだと思います。

7. 学力を身に着ける意味はもう1つあります。学力の身に着いた方が社会の中に多ければ多いほど、その社会は正常に機能することです。言いにくい話ですが、福島で原発事故が起きました。もしかしたらですが、あの場所に原子力発電所を設置するというのは少し勉強が足りなかったのではないのでしょうか。津波で発電所が壊滅状態となりメルトダウンまで行ってしまいました。もしかしたら原子力発電所をつくった方にはあのような津波まで予想する力がなかったわけで、学力不足ではなかったかと思わざるを得ません。そのために、社会がとんでもない状況になり、福島の方々は非常に大変な状況に追い込まれてしまったと思います。このことから、学力が高ければ高いほど社会は正常に機能し、持続可能になると思います。このようなことを受刑者の皆さんと一緒に考えさせていただきました。

8. ではどのようにしたら学力が身に着くかという、一番の基本は今勉強している本の中にわからないことばがあったら辞書を引いて調べることです。また、読書をすると思慮深さが生まれますので、これもお勧めです。

9. 刑務所の中には、学校ほど立派ではありませんが、図書室があり、辞書や本が置かれています。聞いたところによりますと、1人につき3冊の本が2週間ほど借りられます。自由時間も少しありますので、その時間に借りた本を読むことができます。そこで私は、3冊のうちの1冊は辞書を借り、残りの2冊はゆっくりゆっくり読む本とどんどん読む本に分けて自分の好きな本、あるいは自分のためになる本を借りてくださいとお勧めしました。そして、2週間かけて読んでくださいとお話しました。

辞書を傍らに置いてわからないことばがあるたびに調べていくと、ことばの力がつきます。すると、いろいろなものを読むとき・いろいろなことを考えるときによくわかったり適切に表現したりできます。ですから、辞書を引くことはとても大事であるとお伝えしました。

10. また、刑務所内で新聞を読むことができますので、新聞を読む機会があったら必ず読み、世の中がどうなっているのかを知った上で社会に出て行っていただきたい。そうすると社会に出てから立派な活動ができるのではないかというお話もさせていただきました。

6月9日に30分ぐらいかけて以上のような内容を栃木刑務所の受刑者の皆さんの前でお話し、一緒に考えてみました。放送をお聴きの皆さんはどのようにお考えでしょうか。